

多文化社会学研究科博士後期課程カリキュラムマップ

想定される出口

研究者（留学生の母国の大学や研究機関を含む。）、グローバルに展開する企業、国際機関、社会人の学びなおし

修了要件：16単位

	博士論文審査プロセス	演習科目（12単位・必修）	演習科目（4単位・必修）
D3	<p>博士論文の要旨と審査結果を公表</p> <p>研究科教授会で学位授与判定</p> <p>1~2月：学位論文審査・最終試験論文公聴会(公開)の実施</p> <p>12月：博士論文提出 学位審査委員の決定</p> <p>9~10月：博士論文予備審査</p> <p>第1Q：研究計画書の更新</p>	<p>「研究指導」(4)</p> <p>「研究演習Ⅰ」及び「研究演習Ⅱ」で取り組んだ内容を踏まえ、先行研究の読解とその批判的検の成果を更に発展させつつ、博士(学術)の学位に相応しい論点、方法、分析、考察、論証を有した博士論文を作成し、各系でディプロマポリシーにおいて定める能力の獲得を目指す。</p>	
D2	<p>第4Q：研究成果報告書Ⅱの作成 合同中間発表会の実施</p> <p>少人数体制の指導による、研究進捗に合わせた討論・方法と結果のチェック、実際の論文作成指導</p> <p>第1Q：研究指導チームの見直し 研究計画書の更新</p>	<p>「研究演習Ⅱ」(4)</p> <p>「研究演習Ⅰ」の成果を更に発展させるなかで、研究指導チームからの助言を踏まえ研究計画を更新し、これに基づき研究を進めていく。資料・データの収集、分析、考察を更に進め、「多文化社会的状況」における「問題本質を見極める力」又は「問題解決に向けた多様な解を提示する力」の更なる高度化を図る。成果は「研究成果報告書Ⅱ」にまとめる。</p>	
D1	<p>第4Q：研究成果報告書Ⅰの作成 合同中間発表会の実施</p> <p>少人数体制の指導による、研究進捗に合わせた討論・方法と結果のチェック、実際の論文作成指導</p> <p>第1Q：研究指導チームの構築 研究計画書の作成</p>	<p>「研究演習Ⅰ」(4)</p> <p>指導教員及び副指導教員からなる研究指導チームからの指導により、持続可能な社会の構築に資する質の高い研究計画を立案し、これに基づき研究を進めていく。資料・データの収集、分析、考察を行うなかで、「多文化社会的状況」におけるより一層高度な「問題本質を見極める力」又は「問題解決に向けた多様な解を提示する力」を養う。成果は「研究成果報告書Ⅰ」にまとめる。</p>	<p>「多文化社会学特別演習Ⅰ」(2) 「多文化社会学特別演習Ⅱ」(2)</p> <p>「俯瞰的かつ超域的な新しい(知)としての多文化社会学において、「社会文化研究系」、「言語研究系」及び「環海日本長崎学・アジア研究系」の研究領域を中心に、21世紀社会の「多文化社会的状況」に対する独創的で卓越的な「問題本質を見極める力」の基盤を形成するとともに、その枠組みにもとづき俯瞰的な観点から自身の専門分野における研究成果をまとめ、超域的な議論を実施することができる能力を身につける。</p>

継続して実施

- ・メンター制度によるロールモデル育成
- ・教員公募書類や研究費の申請書書き方セミナー
- ・研究成果報告支援

多様なバックグラウンドを持つ学生に対し研究に必要な知識を獲得させるために必要に応じ博士前期課程「学問のエレメンツ科目」の聴講を推奨

想定される入口

多文化社会学研究科修士課程からの進学者、他の人文社会系大学院修士課程修了者、留学生や社会人（社会と文化、日本・長崎・アジア、言語・コミュニケーション、公共政策、核兵器廃絶・平和に関心を持つ） ※長期履修制度の利用可